

講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	前期	学 年	1学年
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	フレッシュマンセミナー	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	佐藤美加 他、理学療法科全教員	実務経験	佐藤：医療機関（病院）に5年3ヵ月、理学療法士として勤務。その後2年ほど週1回程度医療機関（病院）に勤務。		
講義目標	一般目標				
	理学療法を学修するにあたり、その概要を知るとともに、学習者としての姿勢を学び、同じ目標を持った仲間や教員など他者と協働して目標を達成する姿勢を培うことを目的とする。				
	到達目標				
	①理学療法士に必要な基本的能力を到達目標として熟知し、学修する能力を養う。 ②自主的に課題を発見し、自己学習によって解決に向けて対応できる能力を養う。 ③他者と協力して、課題の解決に向けて、対処方法を見出すことができる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	学科オリエンテーション	11	
2	志望動機の整理①（自己紹介）	12	
3	志望動機の整理②（面談）	13	
4	基礎学力・表現力向上にむけて	14	
5	キャンパスツアー	15	
6	学年交流	16	
7	他学年交流①	17	
8	他学年交流②	18	
9		19	
10		20	

講義方法

1～4回目までは、オンライン授業にて実施。5回目以降は、学内で実施。

成績評価方法

出席と提出物により評価する

参考書**予習復習のアドバイス**

講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	通年	学 年	1
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	医学英語	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	小宮山与一 高田拓明	実務経験	小宮山：医療機関（病院、外来クリニック）9年、障害支援施設8年、理学療法士として勤務。高田：医療機関（リハビリテーション病院、整形外科）8年、介護保健施設・訪問介護ステーション8年、理学療法士として勤務。		
講義目標	一般目標				
	臨床現場で使用される医療に関する英語（英単語）、略語を理解して、カルテ等の資料を読み取ることができ、対象者の情報を記すことができる。				
	到達目標				
	1. 臨床で用いられる英単語や略語を理解し、用いることができる。 2. 医学英語で用いられる接頭語や解剖・運動学用語を理解できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	理学療法に関する医学用語	11	
2	面、肢位、運動方向に関する医学用語	12	
3	人体各部の医学英語名称（1） 骨・関節	13	
4	人体各部の医学英語名称（2） 筋系	14	
5	医学英語論文の読解①	15	
6	医学英語論文の読解②	16	
7	医学英語論文の読解③	17	
8	医学英語論文の読解④	18	
9		19	
10		20	

講義方法

各自で辞書、教科書等を用い、授業で扱う用語について調べてください。

成績評価方法

期末試験

参考書

コ・メディカル版 ステッドマン医学辞典（英和・和英）

予習復習のアドバイス

1年前期・後期の履修科目に関する用語の理解が前提となります。

他科目での用語の復習が必要になりますので事前に確認しておくこと。

講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	通年	学 年	1
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	体表解剖実習	講義曜日	時間割参照	講義回数	23
		総時間数	45	単位数	1
講師名	小宮山 与一、高田 拓明	実務経験	小宮山：医療機関（病院、外来クリニック）9年、障害支援施設8年、理学療法士として勤務。高田：医療機関（リハビリテーション病院、整形外科）8年、介護保健施設・訪問介護ステーション8年、理学療法士として勤務。		
講義目標	一般目標				
	骨格筋の用語及び構造を理解する。構造理解について、3次的に理解するために体表から筋や骨を触察し描写する技術や超音波エコーを用い断層診断する技術を経験する。				
	到達目標				
	①骨格筋の名称、形態及び位置関係を理解する。 ②骨格筋と骨格を用紙に描写できる。 ③骨格筋と骨を対象学生の体表から触り分け、体表上に描写し、構造を立体的にイメージすることができる。 ④超音波画像診断装置を用い、断層診断することで骨格筋の重なりや位置関係をイメージすることができる。				
回数	講義内容	回数	講義内容		
1	頭頸部	16	実習：上肢帯前面		
2	肩甲帯	17	実習：上肢帯後面		
3	前胸部	18	超音波エコーレクチャー（0.5時間）		
4	上腕	19	実習：超音波エコー①		
5	前腕・手指	20	実習：超音波エコー②		
6	下部体幹	21	実習：超音波エコー③		
7	大腿前面	22	実習：超音波エコー④		
8	大腿後面・殿部	23	実習：超音波エコー⑤		
9	下腿前面・足部	24			
10	下腿後面・足部	25			
11	実習：下腿前面の触診	26			
12	実習：下腿後面の触診	27			
13	実習：大腿前面・膝の触診	28			
14	実習：大腿後面・内側面の触診	29			
15	実習：肩甲骨・頸部の触診	30			

講義方法

- ・ 教室での講義と実習室での実習の形式で行う。
- ・ 実習の服装として、実習着もしくは肌を露出できる半袖とするが、授業前に指示をする。
- ・ 実習の準備物として、各自バスタオルを持参する。

講義で使用する機器・教材

- ・ 骨格筋の形と触察法
- ・ プロジェクター

履修上の注意事項

- ・ 部位により肌の露出の難しい者は事前に相談すること。衣服上からのシール等に対応可能。
- ・ 水性マジックで皮膚に直接書くため困難者は事前に報告すること。

成績評価方法

出席状況、学習態度、課題、テストで総合的に判断する。

教科書

- ・ 骨格筋の形と触察法

予習復習のアドバイス

- ・ 解剖学、運動学と関連させて学習すること。
- ・ 空き時間にクラスメイト同士で実習すると知識として定着します。

講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	通年	学 年	1
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	運動学Ⅰ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	和地辰紀、外部講師（理学療法士）	実務経験	和地：医療機関（一般病院）3年、介護老人保健施設4年、理学療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	運動や障害を評価するために必要な捉え方・考え方の基礎となる運動学的知識を習得する。				
	到達目標				
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動学的用語を理解し、正しく用いることができる。 2. 身体の基本的な構造や分類を理解し、正しく用いることができる。 3. 神経筋骨格系の構造や分類を理解し、正しく用いることができる。 4. 力学原理に基づく運動の記述と解釈ができる。 				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	運動学の定義・表現の基本	11	脊柱
2	神経筋骨格系の機能（骨・関節）	12	脊柱
3	神経筋骨格系の機能（筋）	13	脊柱
4	神経筋骨格系の機能（神経）	14	運動発達
5	神経筋骨格系の機能（腱・靭帯）	15	運動発達
6	運動の中樞神経機構、姿勢	16	
7	運動学習、生体力学	17	
8	顔面	18	
9	呼吸	19	
10	呼吸	20	

講義方法

教科書、スライド、配付資料を使用します。また、人体模型・標本や実際の身体運動と照らし合わせながら講義を行います。

講義で使用する機器・教材

教科書、ホワイトボード、スライド、人体模型・標本を使用。

履修上の注意事項

理学療法の基本となる重要な科目です。

覚えなければいけないキーワードが毎回多く出ます。

解剖学・生理学の知識と結びつけながら学ぶ必要があります。

成績評価方法

担当教員毎に筆記試験を実施し、各教員の試験において6割に満たない場合は、それぞれ再試験を実施します。それらの結果を合算し総合評定を行います（各教員持ち点25点）。

教科書

中村隆一 斎藤宏 著 基礎運動学 第6版 補訂 医歯薬出版

参考書

適宜、授業で紹介します。

予習復習のアドバイス

わからないことは、すぐに調べる、又は教員に聞くこと。

常に疑問を持ち臨むこと。

講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	通年	学 年	1
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	運動学Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	佐藤美加、三浦信明	実務経験	佐藤：医療機関（病院）に5年3ヵ月、理学療法士として勤務。その後2年ほど週1回程度医療機関（病院）に勤務。 三浦：医療機関（整形外科病院）に理学療法士として9年勤務。		
講義目標	一般目標				
	運動や障害を評価するために必要な捉え方・考え方の基礎となる運動学的知識を習得する。				
	到達目標				
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動学的用語を理解し、正しく用いることができる。 2. 身体の基本的な構造や分類を理解し、正しく用いることができる。 3. 神経筋骨格系の構造や分類を理解し、正しく用いることができる。 4. 力学原理に基づく運動の記述と解釈ができる。 				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	股関節	11	肘関節、手部
2	股関節	12	歩行
3	膝関節	13	歩行
4	膝関節	14	異常歩行
5	足関節	15	動作演習
6	足関節	16	
7	肩関節	17	
8	肩関節	18	
9	肘関節、手部	19	
10	肘関節、手部	20	

講義方法

教科書、スライド、配付資料を使用します。また、人体模型・標本や実際の身体運動と照らし合わせながら講義を行います。

講義で使用する機器・教材

教科書、ホワイトボード、スライド、人体模型・標本を使用。

履修上の注意事項

理学療法の基本となる重要な科目です。

覚えなければいけないキーワードが毎回多く出ます。

解剖学・生理学の知識と結びつけながら学ぶ必要があります。

成績評価方法

期末試験

教科書

中村隆一 斎藤宏 著 基礎運動学 第6版 補訂 医歯薬出版

参考書

適宜、授業で紹介します。

予習復習のアドバイス

わからないことは、すぐに調べる、又は教員に聞くこと。

常に疑問を持ち臨むこと。

講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	通年	学 年	1
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	理学療法概論	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	籠倉 暁 井澤 真一	実務経験	籠倉：医療機関（一般病院、整形外科病院）に理学療法士として9年勤務。 井澤：介護老人保健施設に理学療法士として5年勤務		
講義目標	一般目標				
	理学療法及び理学療法士の概略を理解する				
	到達目標				
	理学療法士を目指す学生として、将来の理学療法士像をイメージできるようになるとともに、この3年間で具体的にどのように過ごす必要があるのかをイメージできるようになる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	理学療法の定義	11	理学療法と障害モデル
2	理学療法の定義	12	理学療法過程
3	理学療法士としての活躍	13	理学療法過程
4	理学療法士の役割	14	理学療法過程
5	理学療法士の役割	15	まとめ
6	見学実習前学習①		
7	見学実習前学習②		
8	見学実習前学習③		
9	理学療法と障害モデル		
10	理学療法と障害モデル		

講義方法

講義、調べ学習、課題、グループワーク、発表

成績評価方法

レポート、期末試験、発表を総合的に勘案し評価します。

評価方法：課題（10点）、発表課題（20点）、期末試験（70点）を合算

教科書

PT・OTビジュアルテキスト理学療法概論 羊土社

予習復習のアドバイス

主に教科書を使用しますが、必要に応じて資料を配布する予定です。全て

期末試験範囲の資料となりますので、復習する際に十分に活用すること。

講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	通年	学 年	1
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	基礎理学療法学	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	籠倉暁 井澤真一 小宮山与一 高田拓明	実務経験	籠倉：医療機関（一般病院、整形外科病院）に理学療法士として9年勤務。井澤：介護老人保健施設に理学療法士として5年勤務。小宮山：医療機関（病院、外来クリニック）9年、障害支援施設8年、理学療法士として勤務。高田：医療機関（リハビリテーション病院、整形外科）8年、介護保健施設・訪問看護ステーション8年、理学療法士として勤務。		
講義目標	一般目標				
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 理学療法評価・治療を行うために必要な基礎科学(解剖学/生理学/運動学)や病態について理解すること。 ・ 病態や機能障害について、学問的理屈を臨床場面で確認する。 				
	到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 理学療法評価・治療に必要な基礎科学や病態のメカニズムを理解し、説明できる。 ・ 調べた病態や機能障害について、見学実習で患者さんを通し、実際に起こっている現象を確認し、具体性を持って説明できる。 ・ 3段階の段階的目標を設定する。 <ol style="list-style-type: none"> 1、実習前、基礎科学、病態および機能障害について調べ学習を実施できる。 2、実習中、調べた基礎科学、病態および機能障害について患者を通して確認できる。 3、実習後、基礎科学、病態および機能障害について教科書的な理屈と臨床像を報告書 にまとめ、発表できる。 					
回数	講義内容		回数	講義内容	
1	概要説明		11	プレゼンテーション（1）	
2	テーマの選定		12	プレゼンテーション（2）	
3	テーマの選定		13	プレゼンテーション（3）	
4	課題作成(1)		14	プレゼンテーション（4）	
5	課題作成(2)		15	プレゼンテーション（5）	
6	課題作成(3)		16		
7	課題作成(4)		17		
8	プレゼンテーション準備(1)		18		
9	プレゼンテーション準備(2)		19		
10	プレゼンテーション準備(3)		20		

講義方法

個別学習、調べ学習、ペア学習、発表

成績評価方法

授業態度、発表態度・内容、小テスト、出席状況を考慮して評価する。

参考書

理学療法ハンドブック 1～4 巻

予習復習のアドバイス

主体的に行動し、随時教員に報告・連絡・相談を行い進めいていくこと。

講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	通年	学 年	1
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	理学療法管理学Ⅰ	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	佐藤美加	実務経験	佐藤：医療機関（病院）に5年3ヵ月、理学療法士として勤務。その後2年ほど週1回程度医療機関（病院）に勤務。		
講義目標	一般目標				
	理学療法学生としての自己管理、マネジメントの必要性について学ぶ。				
	到達目標				
	①理学療法学生とし、自己管理の必要性を理解し、理学療法士を目指す学修者としての自己管理ができる ②コンプライアンス（法令遵守）、個人情報保護法、理学療法倫理について理解する③見学実習に向け、感染対策及び情報管理ができる				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	理学療法学生としての自己管理①(学修要項の説明、時間割・シラバスの見方など)	11	
2	学校生活における感染対策と個人情報保護	12	
3	法令遵守(コンプライアンス) について	13	
4	理学療法管理学の意義	14	
5	理学療法学生としての自己管理②(学習方法、スケジュール管理など)	15	
6	理学療法士の職業倫理	16	
7	見学実習における感染対策と個人情報保護	17	
8	まとめ	18	
9		19	
10		20	

講義方法

前期は遠隔授業にて、後期は対面にて行う。

成績評価方法

出席、レポート等で総合評定する

参考書**予習復習のアドバイス**

初心を忘れずに・・・「理学療法士になる！」

講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	通年	学 年	1
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	理学療法評価学Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	23
		総時間数	45	単位数	3
講師名	籠倉 暁、井澤 真一	実務経験	籠倉：医療機関（一般病院、整形外科病院）に理学療法士として9年勤務。 井澤：介護老人保健施設に理学療法士として5年勤務。		
講義目標	一般目標				
	骨格筋系の代表的な測定法である、関節可動域測定及び徒手筋力検査法を習得する				
	到達目標				
	関節可動域測定及び徒手筋力検査法の意義及び目的を理解し、その手法について習得する				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	評価学Ⅱ総論・関節可動域測定概論	16	徒手筋力測定法（肩甲帯）
2	関節可動測定（股関節）	17	徒手筋力測定法（肩甲帯・肩）
3	関節可動測定（股関節・膝関節）	18	徒手筋力測定法（肩関節）
4	関節可動測定（膝関節・足関節）	19	徒手筋力測定法（肩関節）
5	関節可動測定（肩甲帯・肩関節）	20	徒手筋力測定法（肘関節）
6	関節可動測定（肩関節・肘関節）	21	徒手筋力測定法（手関節）
7	関節可動測定（前腕・手関節）	22	徒手筋力測定法（頸部）
8	関節可動測定（頸部・体幹）	23	徒手筋力測定法（体幹）
9	筋力測定法概論	24	
10	徒手筋力測定法（股関節）	25	
11	徒手筋力測定法（股関節）	26	
12	徒手筋力測定法（股関節）	27	
13	徒手筋力測定法（膝関節）	28	
14	徒手筋力測定法（膝・足関節）	29	
15	徒手筋力測定法（足関節）	30	

講義方法

- ・実技中心ですが、座学も一部行います。

履修上の注意事項

- ・毎回実技があります。動きやすい服装（白衣でなくとも可）に着替えて出席してください。
- ・メモをとる準備をしてください。

成績評価方法

筆記試験（60％）及び実技試験（40％）

教科書

理学療法評価学(金原出版)、新・徒手筋力検査法（協同医書出版）

参考書

日本人体解剖学（南山堂）

PT・OTのための測定評価1 ROM測定

PT・OTのための測定評価2 MMT-頭部、頸部、上肢

PT・OTのための測定評価3 MMT-体幹、下肢

予習復習のアドバイス

- ・関節や筋をイメージしながら、声に出し、体を動かしながら、全身を使って練習してください。
- ・患者さんと接するように相手役への説明や声掛けを行ってください。
- ・講義終了後に復習をしてください。また翌週の講義前に教科書で予習をしてください。

講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	後期	学 年	1
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	理学療法評価学Ⅲ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	高田拓明 小宮山与一 佐藤美加 三浦信明 和地辰紀	実務経験	高田：医療機関（リハビリテーション病院、整形外科）8年、介護保健施設・訪問看護ステーション2年、理学療法士として勤務。小宮山：医療機関（病院、外来クリニック）9年、障害支援施設8年、理学療法士として勤務。佐藤：医療機関（病院）に5年3ヵ月、理学療法士として勤務。その後2年ほど週1回程度医療機関（病院）に勤務。三浦：医療機関（整形整形外科病院）に理学療法士として9年勤務。和地：医療機関（一般病院）3年、介護老人保健施設4年、理学療法士として勤務。		
講義目標	一般目標				
	理学療法評価の基礎となる形態測定・疼痛検査・バランス検査・脳神経検査の総合的理解を深めることで、2年次以降の疾患特性、評価手技、治療法などの各論的な学習に繋げる。				
	到達目標				
	基礎的な理学療法評価法について理解し、健常者に対して実施できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	形態測定(1) 高田	11	バランステスト(1) 三浦
2	形態測定(2) 高田	12	バランステスト(2) 三浦
3	形態測定(3) 高田	13	バランステスト(3) 三浦
4	痛みの評価(1) 小宮山	14	脳神経検査(1) 和地
5	痛みの評価(2) 小宮山	15	試験
6	痛みの評価(3) 小宮山	16	
7	痛みの評価(4) 小宮山	17	
8	歩行機能評価(1) 佐藤	18	
9	歩行機能評価(2) 佐藤	19	
10	歩行機能評価(3) 佐藤	20	

講義方法

講義及び実技

成績評価方法

15コマ目の試験は筆記試験にて実施。実技試験は別途実施する。

教科書

理学療法評価学(金原出版)

予習復習のアドバイス

講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	後期	学 年	1
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	運動療法Ⅰ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	三浦 信明	実務経験	三浦：医療機関（整形整形外科病院）に理学療法士として9年勤務。		
講義目標	一般目標				
	運動療法技術に関する基礎的知識と技術を学ぶ				
	到達目標				
	1.基本的な運動療法の目的を理解する。 2.基本的な運動療法の原理原則を理解する。 3.基本的な運動療法を実技を通して経験し、他者に実施する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	運動療法とは	11	基本的な運動療法 持久力増強運動
2	運動療法の必要性と効果	12	基本的な運動療法 持久力増強運動
3	トレーニングの基礎的原理	13	その他の運動療法
4	基本的な運動療法 関節可動域運動	14	その他の運動療法
5	基本的な運動療法 関節可動域運動	15	その他の運動療法
6	基本的な運動療法 関節可動域運動	16	
7	基本的な運動療法 筋力増強運動	17	
8	基本的な運動療法 筋力増強運動	18	
9	基本的な運動療法 筋力増強運動	19	
10	基本的な運動療法 持久力増強運動	20	

講義方法

スライド・プリントで運動療法の基礎的知識の講義を行う。その後、実技にて実際に身体を動かしながら体験していく。

成績評価方法

期末試験 100点

参考書

Crosslink理学療法学テキスト 運動療法学

シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト(改訂第3版)

標準理学療法学専門分野運動療法学総論

予習復習のアドバイス

基礎科目(解剖・生理・運動)の復習をしながら授業に臨んで下さい。

実技は相手を変えながら積極的に練習して下さい。

講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	通年	学 年	2
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	基礎理学療法学実習Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	23
講師名	小宮山与一 三浦信明 高田拓明	総時間数	45	単位数	1
		実務経験	小宮山：医療機関（病院、外来クリニック）9年、障害支援施設8年、理学療法士として勤務。三浦：医療機関（整形整形外科病院）に理学療法士として9年勤務。高田：医療機関（リハビリテーション病院、整形外科）8年、介護老人保健施設・訪問看護ステーション2年、理学療法士として勤務。		
講義目標	一般目標				
	①理学療法士で実施される評価(検査・測定)の方法を習得する。 ②各疾患の理学療法ガイドラインに基づき、その活用について理解を深める。				
	到達目標				
	①検査測定の意味、評価技術の習得、実施。 ②各疾患の理学療法ガイドラインに基づいて各評価の意味や解釈などについてまとめ、討論する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	理学療法評価（評価の捉え方）	16	整形外科スペシャルテスト
2	理学療法評価 統合と解釈①	17	文献抄録 概要説明
3	理学療法評価 統合と解釈②	18	文献抄録 レジューメ作成
4	理学療法評価 統合と解釈③	19	文献抄録 レジューメ作成
5	理学療法評価 統合と解釈④	20	文献抄録 討論
6	片麻痺運動検査	21	文献抄録 討論
7	片麻痺運動検査	22	文献抄録 討論
8	高次脳機能検査	23	まとめ
9	高次脳機能検査	24	
10	協調性検査	25	
11	協調性検査	26	
12	疼痛検査	27	
13	疼痛検査	28	
14	整形外科スペシャルテスト	29	
15	整形外科スペシャルテスト	30	

講義方法

- ①実技中心に各評価方法を説明し、実際に検査・測定を実施します。
- ②担当教員に適宜相談しながら発表用レジュメを作成。発表をもって課題完成とする。

講義で使用する機器・教材

ホワイトボード、スライド、配付資料、各種検査器具等

履修上の注意事項

- ①実技試験にて評定を行うため、積極的に練習を行ってください。
- ②オリエンテーションにて説明した別紙に記載の内容に従って課題を進めてください。

成績評価方法

実技試験、文献発表を総合的に勘案し評価します。

実技は実技試験合格、文献は発表をもって課題到達として採点を行う。

(実技試験50点、文献発表50点)

教科書

理学療法ガイドライン第1版（日本理学療法士協会）

予習復習のアドバイス

- ①各評価の目的・意義を意識しながら練習を行うこと。
実技練習は相手を変えながらどのような人にも実施できるようにすること。
- ②計画性をもって課題を遂行すること。
担当教員への報・連・相を怠らないこと。

講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	通年	学 年	2
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	骨関節障害理学療法評価学	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	小宮山与一 三浦信明	実務経験	小宮山：医療機関（病院、外来クリニック）9年、障害支援施設8年、理学療法士として勤務。三浦：医療機関（整形外科病院）に理学療法士として9年勤務。		
講義目標	一般目標				
	骨関節疾患の病態及び運動器障害の概要を知り、それらの理学療法評価について学ぶ。				
	到達目標				
	骨関節疾患及び運動器障害について理解し、それらの理学療法評価を計画・実施することができる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	整形外科疾患の評価	11	骨折の理学療法評価（総論）
2	関節リウマチ(総論、評価)	12	骨折（高齢者の四大骨折の概要）
3	末梢神経損傷（総論、評価）	13	骨折（高齢者の四大骨折の概要）
4	脊椎疾患（総論、評価）	14	肩関節周囲炎（総論）
5	脊椎疾患（総論、評価）	15	肩の外傷（総論、評価）
6	変形性股・膝関節症（総論）	16	
7	変形性股・膝関節症（評価）	17	
8	膝靭帯損傷/半月板損傷	18	
9	膝靭帯損傷/半月板損傷	19	
10	捻挫と肉離れ（総論、評価）	20	

講義方法

講義及び実技形式にて実施

成績評価方法

期末試験 100点

参考書

理学療法ハンドブック第1～4巻

標準理学療法学 専門分野 骨関節理学療法学

標準整形外科学

理学療法アクティブラーニングテキスト骨関節障害理学療法学

予習復習のアドバイス

教科書をよく読むこと

実技練習は相手を変えて様々な人で行うこと。

講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	前期	学 年	2
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	神経筋障害理学療法評価学	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	高田拓明	実務経験	医療機関（リハビリテーション病院、整形外科）8年、介護保健施設・訪問看護ステーション2年、理学療法士として勤務。		
講義目標	一般目標				
	リハビリテーションの対象となる代表的な神経・筋疾患について理解する。具体的には、パーキンソン病などの神経疾患、筋ジストロフィーなどの筋疾患、脊髄小脳変性症などの難病疾患の神経・筋疾患の病態のメカニズム、症状、医学的治療及びリハビリテーション等について学習する。				
	到達目標				
	1. 神経機能の基礎について、生理学、解剖学の側面から理解できる。 2. 対象となる疾患を理解する上で、遺伝子の欠損、タンパク質の変性、ウイルス感染等によって各種症状を呈するメカニズムが理解できる。 3. 対象となる疾患の症状、医学的管理、および予後を理解し、時期や重症度に応じたリハビリテーション計画（評価項目、目標設定、治療プログラムの立案）を考えることができる。 4. 対象となる疾患の関連知識として介護技術、ADL、福祉用具、社会資源等が理解できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	神経筋疾患総論	11	黒質細胞変性疾患 パーキンソン病の病態及び障害像を理解
2	末梢性ニューロパシー関連疾患 ギラン・バレー症候群等の末梢性ニューロパシーの病態及び障害像を理解	12	黒質細胞変性疾患 パーキンソン病の病態及び障害像を理解
3	ミオパシー関連疾患 重症筋無力症、多発性筋炎を代表とするミオパシーの病態及び障害像を理解	13	中枢神経脱髄性疾患概論 多発性硬化症を代表とする脱髄性疾患の病態及び障害像を理解
4	脊髄損傷 1 頸髄損傷の病態及び障害像を理解	14	筋ジストロフィー
5	脊髄損傷 2 腰髄損傷の病態及び障害像を理解	15	筋ジストロフィー
6	脊髄損傷 3 脊髄損傷不全麻痺の病態及び障害像を理解	16	
7	進行性変性疾患概論 ALS, SCD, パーキンソン病等の変性疾患概論	17	
8	運動ニューロン変性疾患 筋萎縮性側索硬化症を代表とする運動ニューロン疾患の病態、および障害像を理解	18	
9	小脳変性疾患 脊髄小脳変性症（SCD）を代表とする小脳変性疾患の病態及び障害像を理解	19	
10	小脳変性疾患 脊髄小脳変性症（SCD）を代表とする小脳変性疾患の病態及び障害像を理解	20	

講義方法

- ・ 教室での講義及びグループ学習、並びに実習室での実技

講義で使用する機器・教材

- ・ 教科書を毎回持参してください。
- ・ 講義資料は電子媒体で配布します。

履修上の注意事項

- ・ 配布物の整理はその都度行うこと。実習時はケースへの着替えを行うこと。

成績評価方法

- ・ 授業態度、出席状況、グループワーク、筆記テスト、課題を加味して総合で評価する。
- ・ グループワークでは、課題への取り組み状況、提出状況、提出物・発表スライドの完成度、発表内容、及び発表聴講時態度等を採点することとする。

教科書

- ・ 理学療法学テキスト 神経障害理学療法学Ⅱ MEDICAL VIEW
- ・ 標準神経病学 医学書院
- ・ PTOTビジュアルテキスト 神経障害理学療法学 羊土社

参考書

- ・ ハンドブック 1巻～4巻 羊土社

予習復習のアドバイス

各疾患ごとに症状やリハビリテーションを暗記するのではなく、病態生理や発症機序を理解した上で、症状を関連させて考えると良い。例えば、脱髄性ニューロパチー（末梢神経障害）であるギランバレー症候群の典型は、髄鞘が障害されるため運動神経および有髄感覚神経（位置覚，振動覚）の神経伝導速度が低下する。位置覚障害のため失調性歩行を呈し、無髄神経線維の温痛覚などは比較的保たれる。上記から分かるように神経機能の生理学と各疾患の症状を結びつけることで疾患理解を深め、臨床に役立つ知識となる。

講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	通年	学 年	2
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	内部障害理学療法評価学	講義曜日	時間割参照	講義回数	23
		総時間数	45	単位数	3
講師名	井澤 真一 外部講師（理学療法士）	実務経験	介護老人保健施設に理学療法士として5年勤務		
講義目標	一般目標				
	呼吸、循環及び代謝の生理学を復習し、病態に応じた診断・評価・治療の流れについて学ぶ。また悪性新生物を含む終末期医療の特性について学ぶ。				
	到達目標				
	呼吸・循環・代謝機能障害を理解し、病態に応じた診断・評価・治療の流れについて理解する。また悪性新生物を含む終末期医療の特性について理解する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	内部障害とは（新國）	16	呼吸理学療法のための病態理解②（横田）
2	エネルギー代謝と栄養（新國）	17	呼吸理学療法のための評価①（横田）
3	糖尿病の概要、病態（新國）	18	呼吸理学療法のための評価② フィジカルアセスメント①（横田）
4	糖尿病の合併症（新國）	19	呼吸理学療法のための評価③ フィジカルアセスメント②（横田）
5	糖尿病の検査、評価（新國）	20	呼吸理学療法のための評価④ フィジカルアセスメント③（横田）
6	心臓の機能解剖（横田）	21	悪性新生物と理学療法評価①（辻）
7	循環器運動生理学（横田）	22	悪性新生物と理学療法評価②（辻）
8	運動負荷試験（横田）	23	老年期の理学療法評価
9	循環器疾患の評価1（横田）	24	
10	循環器疾患の評価2（横田）	25	
11	循環グループワーク	26	
12	グループワークプレゼンテーション（横田）	27	
13	呼吸器系の解剖・運動学（横田）	28	
14	呼吸器系の生理学（横田）	29	
15	呼吸理学療法のための病態理解①（ <input checked="" type="checkbox"/> 横田）	30	

講義方法

講義及び実技

講義で使用する機器・教材

講義毎に各担当教員に確認すること

履修上の注意事項

複数の教員、及び外来講師で行います。

成績評価方法

小テスト、期末試験などにより総合評定する。

期末試験については、前期（1-12）と後期（13-23）に分けて実施する。

それぞれ60未満の場合は、再試験を実施する。

教科書・参考図書

理学療法ハンドブック（協同医書出版社）

予習復習のアドバイス

教科書や講義資料をよく読むこと。わからない言葉など事前に調べる努力をしましょう。

講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	通年	学 年	2
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	運動療法	講義曜日	時間割参照	講義回数	15/30
		総時間数	30/60	単位数	2/4
講師名	三浦 信明	実務経験	医療機関（整形外科病院）に理学療法士として9年勤務		
講義目標	一般目標				
	運動療法技術全般に関する基礎的知識と技術を学ぶ				
	到達目標				
	1.基本的な運動療法の目的を理解する 2.基本的な運動療法の原理原則を理解する 3.基本的な運動療法を実技を通して経験し、他者に実施する				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	イントロダクション(運動療法の概要)	11	バランス障害に対する運動療法
2	関節可動域練習(ROMexを中心に)	12	バランス障害に対する運動療法
3	関節可動域練習(関節モビライゼーションを中心に)	13	歩行練習(荷重練習、杖歩行練習)
4	関節可動域練習(ストレッチングを中心に)	14	歩行練習(荷重練習、杖歩行練習)
5	筋力増強練習	15	高齢者の運動療法・ホームex
6	筋力増強練習	16	
7	全身持久力増強運動	17	
8	全身持久力増強運動	18	
9	協調運動障害に対する運動療法	19	
10	協調運動障害に対する運動療法	20	

講義方法

スライド・プリントで運動療法の基礎的知識を講義し、その後、実技で実際に身体を動かしながら確認していく。

講義で使用する機器・教材

スクリーン、プロジェクター。その他は適宜指示します。

履修上の注意事項

実技を多く行います。実技のできる動きやすい服装で（ケーシーなど）授業に臨むこと。

成績評価方法

前期50点・後期50点ずつの総合点で評定を行う。

教科書

理学療法ハンドブック第1巻 理学療法の基礎と評価、第2巻 治療アプローチ

参考書

理学療法技術ガイド（文光堂）、シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト(改訂第2版)

理学療法学ゴールド・マスター・テキスト2 運動療法学

15レクチャーシリーズ理学療法テキスト運動療法学

標準理学療法学 専門分野 運動療法学 総論

予習復習のアドバイス

常に積極的に授業に参加してください。実技の際には積極的にPT役・患者役を行うなどして、自分の体を可能な限り使い体験する。適宜、解剖学・運動学・生理学などの予習復習の指示を出すので授業前までに確認してください。実技に関しては短時間で習得できるものではない為、それぞれの時間を利用し練習を行うこと。

講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	通年	学 年	2
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	運動療法	講義曜日	時間割参照	講義回数	15/30
		総時間数	30/60	単位数	2/4
講師名	佐藤美加 他、理学療法科全教員	実務経験	佐藤：医療機関（病院）に5年3ヵ月、理学療法士として勤務。その後2年ほど週1回程度医療機関（病院）に勤務。		
講義目標	一般目標				
	理学療法士の問題解決能力を高めるために、関連する基礎知識の有無を確かめながら、系統的に各疾患について評価・診断・治療プログラムの立案といった重要な事項を習得する。				
	到達目標				
	①それぞれの疾患の特徴を理解することができる。 ②模擬患者の有する問題の仮説を考えることができる。 ③その仮説を検証するための検査項目を明確にすることができる。 ④検査測定の意味、評価結果の解釈が行える。 ⑤得られた情報を統合・解釈し、問題点の整理、目標設定、治療プログラムの立案を行う。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	領域別PBL(整形疾患：RA)	11	領域別PBL(呼吸器疾患)
2	領域別PBL(整形疾患：RA)	12	領域別PBL(呼吸器疾患)
3	領域別PBL(整形疾患：RA)	13	領域別PBL(高齢者維持期)
4	領域別PBL(整形：脊柱疾患)	14	領域別PBL(高齢者維持期)
5	領域別PBL(整形：脊柱疾患)	15	領域別PBL(高齢者維持期)
6	領域別PBL(整形：脊柱疾患)	16	
7	領域別PBL(中枢系疾患)	17	
8	領域別PBL(中枢系疾患)	18	
9	領域別PBL(中枢系疾患)	19	
10	領域別PBL(呼吸器疾患)	20	

講義方法

- ・ 課題はケースノート・自主学習ノート・症例報告レポート・発表用レジュメとする。
- ・ 実習の形式に従い、提示された症例について学習した内容を定期的に各担当教員に提出する。
- ・ 主体的・能動的に学習を進め、担当教員に相談しながら課題をすすめる。
- ・ 課題作成後、発表を行う。

講義で使用する機器・教材

適宜指示します。

履修上の注意事項

- ・ 配布した注意事項に従い、担当教員に適宜フィードバックを受けながら進めること。
- ・ 実習を想定し、能動的に学習を進めること。

PBLに対する心構え

- ・ 経験の乏しいことに対し、まず「自己解決の努力」をし、それに「指導を受ける」ことが重要です。

成績評価方法

提示した評定用紙(実習の評定用紙を参考)に従い総合的に評定を行う。

教科書

特定しない。適宜必要な教科書を用いること。

予習復習のアドバイス

- ・ 配布の資料参照。

講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	通年	学 年	2
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	物理療法	講義曜日	時間割参照	講義回数	23
		総時間数	45	単位数	3
講師名	佐藤 美加	実務経験	佐藤：医療機関（病院）に5年3ヵ月、理学療法士として勤務。その後2年ほど週1回程度医療機関（病院）に勤務。		
講義目標	一般目標				
	各種物理療法の特徴及び生理学的効果等を理解する。				
	到達目標				
	①物理療法の種類を説明できる ②物理療法の適応、禁忌、実施方法について説明できる ③物理療法を実際に使用する				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	物理療法概論(1) (物理療法とは)	16	治療法各論(7) (電気刺激療法概論)
2	物理療法概論(2) (痛みの生理学と病理学)	17	治療法各論(8) (電気刺激療法各論)
3	物理療法概論(3) (関節可動域制限)	18	演習(1)
4	物理療法概論(4) (温熱療法に必要な物理学と生理学)	19	演習(2)
5	治療法各論(1) (ホットパック、パラフィン)	20	演習(3)
6	治療法各論(2) (寒冷療法)	21	演習(4)
7	治療法各論(3) (極超短波、赤外線、レーザー)	22	ケーススタディ
8	治療法各論(4) (超音波)	23	ケーススタディ
9	演習(1)	24	
10	演習(2)	25	
11	演習(3)	26	
12	演習(4)	27	
13	テスト(45分、0.5コマ)	28	
14	治療法各論(5) (水治療法)	29	
15	治療法各論(6) (牽引療法)	30	

講義方法

講義、実技

講義で使用する機器・教材

その都度指定する

履修上の注意事項

実習時には、当日の実習内容にふさわしい服装（Tシャツ、ハーフパンツなど）の用意をしてください

成績評価方法

中間試験、期末試験など

13コマ目にそれまでの内容で中間試験を行います。それが6割に満たない場合、再試験を行います。総合評定は、期末試験（14～23コマの内容）と中間テストで評価します。

教科書

エビデンスから身につける物理療法（羊土社）

予習復習のアドバイス

教科書を何度も読むこと。

講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	通年	学 年	2
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	骨関節障害理学療法治療学	講義曜日	時間割参照	講義回数	23
		総時間数	45	単位数	3
講師名	小宮山与一、三浦信明	実務経験	小宮山：医療機関（病院、外来クリニック）9年、障害支援施設8年、理学療法士として勤務。三浦：医療機関（整形外科病院）に理学療法士として9年勤務。		
講義目標	一般目標				
	運動器障害に対する基本的な手技について、その理論と実際の方法について学ぶ。また、運動器障害の代表的な理学療法について学ぶ。				
	到達目標				
	個々の運動器障害に関する理学療法が説明でき、かつ代表的な理学療法を実践できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	整形外科疾患の治療	16	脊椎手術に対する理学療法
2	骨折の理学療法	17	肩関節周囲炎の理学療法
3	骨折の理学療法	18	肩関節周囲炎の理学療法
4	高齢者の四大骨折の理学療法	19	肩周囲外傷の理学療法
5	高齢者の四大骨折の理学療法	20	膝靭帯損傷・半月板損傷の理学療法
6	変形性股・膝関節症の理学療法	21	膝靭帯損傷・半月板損傷の理学療法
7	変形性股・膝関節症の理学療法	22	膝靭帯損傷・半月板損傷の理学療法
8	人工股・膝関節置換術の理学療法	23	捻挫と肉離れの理学療法
9	人工股・膝関節置換術の理学療法	24	
10	関節リウマチの理学療法	25	
11	関節リウマチの理学療法	26	
12	関節リウマチの理学療法	27	
13	末梢神経の理学療法	28	
14	頸部疾患の理学療法	29	
15	腰部疾患の理学療法	30	

講義方法

講義及び実技

講義で使用する機器・教材

その都度連絡します

履修上の注意事項

授業の復習が必要になります。特に授業中で解決できない部分は自己学習を行い、さらに積極的に質問することを強く推奨します。

本科目は実技を多く講義に含みますので、実技ができる服装での参加が望ましい。

成績評価方法

期末試験

教科書・参考図書

- ・理学療法ハンドブック第1～4巻
- ・標準理学療法学 骨関節理学療法学 ・標準整形外科学
- ・理学療法アクティブラーニングテキスト骨関節障害理学療法学

予習復習のアドバイス

教科書をよく読むこと

実技練習は相手を変えて様々な人で行うこと。

講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	後期	学 年	2
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	神経筋障害理学療法評価学	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	高田拓明	実務経験	医療機関（リハビリテーション病院、整形外科）8年、介護保健施設・訪問看護ステーション2年、理学療法士として勤務。		
講義目標	一般目標				
	リハビリテーションの対象となる代表的な神経・筋疾患の理学療法について理解する。 神経筋疾患の対象者へ実施する理学療法の治療プログラムについて理解し、学生を対象に実践することができる。				
	到達目標				
	1. 対象となる疾患の基本情報を元に時期や重症度に応じた理学療法計画（評価項目、目標設定、治療プログラムの立案）を考えることができる。 2. 立案した治療プログラムを元に対象学生へ理学療法を実施できる。 3. 神経筋疾患における進行性疾患、選定性疾患、難病への理解と重症度・進行度に応じた医療的支援や社会資源の活用、関連職種について理解する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	神経筋疾患の理学療法総論	11	黒質細胞変性疾患 パーキンソン病の理学療法を理解し実践
2	末梢性ニューロパシー関連疾患 ギラン・バレー症候群等の末梢性ニューロパシーの理学療法を理解し実践	12	黒質細胞変性疾患 パーキンソン病の理学療法を理解し実践
3	ミオパシー関連疾患 重症筋無力症、多発性筋炎を代表とするミオパシーの理学療法を理解し実践	13	中枢神経脱髄性疾患概論 多発性硬化症を代表とする脱髄性疾患の病態及び障害像を理解
4	脊髄損傷 1 頸髄損傷の理学療法を理解し実践	14	筋ジストロフィー
5	脊髄損傷 2 腰髄損傷の理学療法を理解し実践	15	筋ジストロフィー
6	脊髄損傷 3 脊髄損傷不全麻痺の理学療法を理解し実践	16	
7	進行性変性疾患概論 ALS、SCD、パーキンソン病等の変性疾患の理学療法を理解し実践	17	
8	運動ニューロン変性疾患 筋萎縮性側索硬化症を代表とする運動ニューロン疾患の理学療法を理解し実践	18	
9	小脳変性疾患 脊髄小脳変性症（SCD）を代表とする小脳変性疾患の理学療法を理解し実践	19	
10	小脳変性疾患 脊髄小脳変性症（SCD）を代表とする小脳変性疾患の病態及び障害像を理解	20	

成績評価方法

- ・ 授業態度、出席状況、グループワーク、筆記テスト、課題を加味して総合で評価する。
- ・ グループワークでは、課題への取り組み状況、提出状況、提出物・発表スライドの完成度、発表内容、及び発表聴講時態度等を採点することとする。

教科書

- ・ 理学療法学テキスト 神経障害理学療法学Ⅱ MEDICAL VIEW
- ・ 標準神経病学 医学書院
- ・ PTOTビジュアルテキスト 神経障害理学療法学 羊土社

参考書

- ・ ハンドブック 1巻～4巻 羊土社

予習復習のアドバイス

- ・ 予習について、毎授業終了後に次回の授業に向けて予習のための資料と課題を提示します。課題は成績評価に反映されますが、課題に取り組むことで学習習慣とともに授業の予習ができ、次回の授業理解に繋がります。
- ・ 復習について、授業開始時に前回までの授業内容の確認やチェックテストを実施します。授業のたびにこれまでの内容を繰り返すことで復習でき記憶の定着や理解に繋がります。

講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	通年	学 年	1
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	内部障害理学療法治療学	講義曜日	時間割参照	講義回数	30
		総時間数	60	単位数	4
講師名	井澤 真一 外部講師（理学療法士）	実務経験	介護老人保健施設に理学療法士として5年勤務		
講義目標	一般目標				
	呼吸・循環器疾患及び代謝疾患、悪性新生物を含む終末期医療の特性に応じた理学療法やリスク管理について学ぶ。				
	到達目標				
	呼吸・循環器疾患及び代謝疾患、悪性新生物を含む終末期医療の特性に応じた理学療法やリスク管理について理解する				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	運動の効果(新國)	11	心臓リハビリテーションの各論（横田）
2	糖尿病の運動療法(新國)	12	疾患別心臓リハビリテーション -AMI、心不全、PAD-（横田）
3	糖尿病の運動処方原則(新國)	13	実習（心電図、6分間歩行）（横田）
4	糖尿病の合併症の運動療法(新國)	14	呼吸理学療法 総論（横田）
5	患者教育(新國)	15	呼吸理学療法 各論-間質性肺炎・結核性肺炎、 -COPD-（横田）
6	肥満症、慢性腎臓病の理学療法(新國)	16	集中治療領域での呼吸リハビリテーション① （横田）
7	心電図読解1（横田）	17	集中治療領域での呼吸リハビリテーション② （横田）
8	心電図読解2（横田）	18	集中治療領域での呼吸理学療法（横田）
9	モニター心電図、デバイス治療（横田）	19	呼吸理学療法実習①-聴診-（横田）
10	心臓リハビリテーション総論（横田）	20	呼吸理学療法実習②-気道クリアランス法- （横田）

回数	講義内容	回数	講義内容
21	グループワーク (横田)		
22	発表① (横田)		
23	発表② (横田)		
24	国家試験対策① (横田)		
25	国家試験対策② (横田)		
26	がんの理学療法①(辻)		
27	がんの理学療法②(辻)		
28	老年期の理学療法① (井澤)		
29	老年期の理学療法② (井澤)		
30	老年期の理学療法③ (井澤)		

講義方法

講義形式を中心に行うが適時実技も行っていく。

講義で使用する機器・教材

教科書、ipad 等

履修上の注意事項

予習・復習を行うこと。

成績評価方法

小テスト、期末試験などにより総合評定する。

期末試験については、前期と後期に分けて実施する。それぞれ60未満の場合は、再試験を実施する。

教科書

理学療法ハンドブック (協同医書出版社)

予習復習のアドバイス

教科書をしっかり読んでくること。授業後はもう一度教科書を読みなおすこと。

講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	通年	学 年	3
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	研究法	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	高田 拓明	実務経験	医療機関（リハビリテーション病院、整形外科）8年、介護保健施設・訪問看護ステーション2年、理学療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	・ 目的に必要な研究論文を探し、読解し、内容を他者に伝えることができる				
	到達目標				
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究の必要性・重要性について説明できる ・ 研究に用いる用語・デザインが一部理解し、論文の図表を説明できる ・ 日本語の医学研究論文を読解し、内容を説明できる ・ グループで理学療法ガイドラインに引用されている英語の原著論文を読解し、要約をレジュメで提出し、スライドを用いて研究内容の発表ができる 				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	医学系研究の用語・図表の解説	11	地域理学療法の英語論文のグループ発表
2	医学系研究のための統計学	12	変形性膝関節症の英語論文のグループ発表
3	医学系研究のための疫学・介入研究	13	パーキンソン病の英語論文のグループ発表
4	日本語論文の検索と読解方法	14	脳卒中の英語論文のグループ発表
5	英語論文読解：特定保健用食品関連	15	COPDの英語論文のグループ発表
6	英語論文読解：ヘルスケア関連		
7	英語論文読解：リハビリテーション関連		
8	理学療法ガイドラインの解説・引用例		
9	英語論文の文献検索・読解と翻訳方法		
10	身体的虚弱の英語論文のグループ発表		

講義方法

前半は講義形式、後半はグループワーク、発表形式になります
グループワークは授業外課題で実施

成績評価方法

発表、課題提出

参考書

- ・日本理学療法士協会 理学療法ガイドライン

予習復習のアドバイス

発表レジュメ作成のために、教員との報告、相談、連絡が必要になります。随時、積極的に主体的に取り組むよう心がけてください。

講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	通年	学 年	3
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	地域理学療法学	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	和地 辰紀	実務経験	医療機関（一般病院）3年、介護施設（介護老人保健施設）4年、理学療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	地域理学療法学では、病気や障害を抱えた人々が生活している場所（地域）で起きている生活問題の解決を図ることや治療技術だけではなくその人らしい生活づくりまでを含めた幅広い領域を理解する。				
	到達目標				
	①地域と理学療法との関係を理解する。 ②医療機関での理学療法と地域での理学療法の違いを理解する。 ③介護保険制度を理解する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	地域リハビリテーションの概念	11	地域で活躍している理学療法士の現状① (工藤先生)
2	地域理学療法の概念	12	地域で活躍している理学療法士の現状② (工藤先生)
3	地域理学療法の対象者	13	地域で活躍している理学療法士の現状③ (望月先生)
4	介護保険制度	14	地域で活躍している理学療法士の現状④ (望月先生)
5	介護保険サービス	15	地域理学療法症例演習
6	介護保険における理学療法	16	
7	障害者自立支援法	17	
8	地域における社会資源	18	
9	在宅医療にかかわる知識	19	
10	健康増進への取り組み	20	

講義方法

4月、5月の講義はオンラインで実施します。6月からは対面講義の予定です。
検討課題について個々人もしくはグループで解決していく。

講義で使用する機器・教材

ホワイトボード，スライド，配付資料等

履修上の注意事項

オンラインでの講義では通信環境等を配慮した上で実施しますので不明な点は伝えてください。
グループ内での検討課題に積極的に参加してください。

成績評価方法

学期末考査、受講態度を総合的に勘案し評価します。

教科書

ビジュアルテキスト 地域リハビリテーション学

参考書

理学療法学 ゴールド・マスター・テキスト 地域理学療法学
地域リハビリテーション原論

予習復習のアドバイス

わからないことは、すぐに調べる、又は教員に聞くこと。
常に疑問を持ち臨むこと。

講義要項（シラバス）

年 度	2020年度	時 期	通年	学 年	3
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	地域生活支援法	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	和地 辰紀 井澤 真一	実務経験	医療機関（一般病院）3年、介護施設（介護老人保健施設）4年、理学療法士として勤務。井澤：介護老人保健施設に理学療法士として5年勤務		
講義目標	一般目標				
	在宅生活者を地域で充実した生活を送れるようにするために保健・医療・福祉に関する社会資源は何があるのかを網羅した形で理解する。				
	到達目標				
	生活の場と身体状態を把握するための手段としてのICFを理解する。 障害がある人の生活を豊かにするためにはどのような社会資源があるのかを理解し覚える。 どのような法制度があるのかを理解し覚える。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	オリエンテーション 地域の生活環境について	11	地域リハビリテーションの実際 ～保険下におけるリハビリ～
2	ICFのとらえ方とニーズの把握	12	高齢者向け生活リハビリのプログラム立案法
3	要介護認定とケアマネジメント	13	予防分野リハビリテーションの実際 ～区市町村からの依頼される介護予防～
4	リハビリテーション実施計画書と理学療法	14	医療保険制度の現状
5	リハビリテーション施設基準について	15	回復期リハビリテーション病棟の現状
6	生活圏のバリアフリー化とユニバーサルデザイン	16	
7	住宅改造のプランニング	17	
8	生活場面での効果判定	18	
9	生活空間の拡大	19	
10	介護老人保健施設の役割	20	

講義方法

授業は板書およびスライドを用いた授業です。

グループワークも用いていきますので、授業にあたって自分の考えを伝えることも大切にしていってください。

講義で使用する機器・教材

ホワイトボード・スライド・配布資料等

履修上の注意事項

地域理学療法学で学んだことや、これまでに履修したことを復習してください。

成績評価方法

学期末考査にて評定します。

教科書

ビジュアルテキスト 地域リハビリテーション学

参考書

理学療法学 ゴールドマスターテキスト 地域理学療法学

予習復習のアドバイス

単に教科書の記載にとらえるのではなく、実際に使うための知識となるように積極的に授業に参加すること。

地域理学療法学の知識だけでなく、解剖学や生理学、理学療法にかかわる様々な知識を必要とするため、常に復習を怠らないこと。